

コンセプチュアルアーティスト

Arthur J. Huang (アーサー・ファン)

スキャニングからデータ作成、立体出力

“光の家”コンセプトモデルを3Dプリンタで製作!

3Dプリンタだからこそ 実現できる精細なカタチ

耐久性・耐水性にすぐれ、長期の野外展示を実現!



3Dデジタル技術を駆使し、アート作品づくりに貢献

1.スキャニング

“光の家”灯台部分のコンセプトモデルを3Dスキャニング



2.モデリング

スキャンデータをもとに、3Dモデリング



4.仕上げ・完成

パーツを組立て、彩色し“光の家”完成



3.造形

モデリングした形状を3Dプリンタで出力



“光の家”ができるまで

House for Light



Arthur J. Huang
(アーサー・ファン)
コンセプチュアルアーティスト

1972年、アメリカ・ワイオミング州生まれ。東京在住。科学者、芸術家。理化学研究所脳科学総合研究センター勤務。

芸術家としての作品は、日常の出来事をテーマに版画、インスタレーションとして創作。作品は主に、ミュージカル・オブ・アート(テキサス州)、アテナ・インスティテュート・オブ・コンテンポラリーアート(ジョージア州)をはじめ、全米のギャラリーに展示されている。

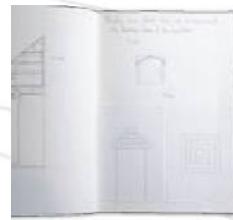
主な個展: 2002「消費者の複雑さ」(デューク大学)、2003「記録の欲望」(オハイオ州)、「読んで、読んでいないコーヒーと理論」(オークランド)など。

グループ展: 2008「摂取」(ジョージア州)、「刑務所のプロジェクト」(サンフランシスコ)、「現在時制ビエンナーレ」(サンフランシスコ)、「コレクションの選択」(テキサス州)、「感覚の饗宴」(サンフランシスコ)、「通貨と帰り」(オークランド)など。

男木島は瀬戸内に浮かぶ人口約160人の小さな島です。最初にこの島に来て思ったのは、平らな土地がなく、斜面に折り重なるようにして家々が立ち並び、車の通れない細い坂道がその間を縫うように通っていました。そして、もう一つ印象に残ったのが、灯台です。島の北端にある男木島灯台は、花崗岩を使った美しい円筒で、「日本の灯台50選」にも選ばれています。

日常の風景を切り取って作品にしてきた私にとって、「男木島」で日常的に愛着をもってよく見かける光景は何かと考えたとき、「この灯台と家並み」が真っ先に頭に浮かびました。そして、そのインスタレーション(芸術空間)をつくることの企画、製作が始まったのです。

プロジェクトのテーマは「光の家」。灯台とその上部に層をなす家並みは、男木島そのものであり、島への愛着心の現われといえます。わずか50センチほどのインスタレーションは、男木島に住む人にも観光で来る人にも、「ほら、ここにあったよ!」と喜びと楽しみをもって、微笑みながら鑑賞してもらえる作品です。



この作品の製作に、3Dプリンタが活かされています。製作期間は3週間ほどで、3基の灯台を台座として立つ家々は合計50戸を超えます。500枚以上の写真を撮り、日夜スケッチを繰り返しては、構図や配色を確かめながら製作を進めました。コンセプトモデルの作成の段階では発泡スチロールに

彫刻を施したり、粘土を加工してみたり、試行錯誤の連続でしたが、最終的な造形は3Dプリンタでの立体出力をそのまま活用しました。そして、その出来映えにおおいに満足しています。



雨風に強い耐久性、スピーディな工期もメリットに感じましたが、なによりすばらしいと思ったのは、そのデータ再現性です。でき上がったコンセプトモデルを立体的にスキャニングし、そこで得たデータを再度、立体として出力する。出力した結果、得られた質感は、選んだ絵の具の色彩表現と相まって、まるで花崗岩の男木島灯台そのもの。さらに、灯台を生まれ変わらせた新しいマスコットのようでもあり、「これが3Dプリンタの威力なんだ」と驚き、感心しました。

安全柵のポールの上などに置かれた作品は、穏やかな瀬戸内の海と光のなかで、新しい道しるべとして愛着をもって観ていただける作品に仕上がっています。



Digital Revolutionary Solution

DRS(Digital Revolutionary Solution)とは、最先端のデジタル技術とアナログ技術、ヒューマンスキルを融合した、「新しいものづくりの手法」です。お客様と一緒にDRSを実証・検証し、製品開発期間の短縮や、コスト削減を目指します。

問い合わせ先
デジタルファクトリー株式会社

〒111-0043

東京都台東区駒形2-1-13 AMSビル2F

TEL 03-6231-7390

FAX 03-6231-7393

info@dfc-3d.com